審 査 員 特 別 賞

「　図書館の魅力－本は読んでおいた方が良い－　」

商学科　3年　北野　菜穂

図書館。それは私の生活になくてはならない場所である。授業と部活と睡眠が生活のほとんどを占めていた小中高生時代、スマホやゲームとは疎遠だった私の楽しみといえば読書で、図書館には何度も足を運び、片っ端から本を読み漁っていたものだ。今でも月に何度か本を借りて読む習慣がついている。そんな生活を送っていると、幾度となく周りから言われる言葉がある。「また図書館？よく行くね」というお褒めの言葉だ。大体その言葉を使う人は普段本を読んでいないし、図書館には自習目的でしか行かない(実は読んでいるのであれば、それは申し訳ないが)。今回はそんな人に図書館の魅力を伝えたいと思う。

まず、前提条件として「本は読んでおいた方が良い」。客観的根拠は専門家にお任せするとして、主観的根拠は、文章を書くこと、読むこと、まとめることが苦痛ではないことだ(できるとは言えない)。これをどう捉えるかはお任せするが、学生であれば少しは本の魅力に気づいてもらえるだろう。本の面白さについては語り始めると止まらないので、次回に持ち越すことにする。

さて、本題の図書館の魅力をお伝えしたい。第一に何といっても新しい本からビジネス書、意外と高い絵本まで無料で読めることだ(突き詰めれば有料なのだが)。本を買う派の人も一度借りて、内容を吟味してから厳選し、自宅図書館に配架してみてはどうだろうか。第二に何万円もする希少価値の高い専門書や新聞、古い書籍までラインナップが豊富であることだ。本屋では絶対にカバーしきれない量の本が図書館には配架されている。論文を書く、調べものをする、そのためだけに高額な金額や膨大な時間をかけずとも図書館に行くことで全て解決する。ぜひレファレンスサービスも利用してみてほしい。

他にも魅力はたくさんあるが、漫画や映像の需要が増えている今だからこそ本を読むことの重要性と図書館の魅力に気づいてほしい。そして、図書館に需要と注目が増えることで図書館のサービスが変化して、人々にとってさらに身近な場所になることを願っている。利用者が増えることによって、読みたい本を先に借りられるのは、少し痛手ではあるが。